

## グリコヘモグロビンが異常低値を示した症例

嶋田 昌司,大峠 和彦,山本 慶和,松尾 収二(天理よろづ相談所病院)

我々はグリコヘモグロビン (HbA1c) が 1.5%以下を示す症例を経験した。原因は自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) で赤血球寿命が短縮したためであり、HbA1dは糖尿病以外の基礎疾患により影響を受けることを再認識した。こうした状況は日常検査の中に潜在しており、今後への対応に関して考察を加え症例報告する。

### 症例]

症例は某日、黄疸、起立時眩暈、動悸を主訴に受診した40才代男性。初診時HbA1c 1.5%以下、Hb 8.6g/dl、網状赤血球 (Ret) が23.9%、LD: 686 IU/l、T-Bil 6.1mg/dl (直接 Bil 15%) と血管内溶血を示す結果であった。直ちに直接、間接クームス陽性が確認されAIHAと診断、即日入院となった。その後の検査でハプトグロブリン 1.0mg/dl以下、LDアイソザイム検査でLD1、2が優位であった。また、グリコアルブミンは26.3%と高値で糖尿病の診断もなされた。

入院後プレドニン 60mgが開始され経過は良好であったが血糖管理不良となりインスリン療法が導入された。そ

の後は順調に軽快し約1ヶ月後に退院となった。退院後の検査は、Hb 13.7/dl、Ret 1.0%、LD 121IU/l、T-Bil 1.2mg/dl、ハプトグロブリン 34.5mg/dlとなり、グリコアルブミンは18.3%と低下した。HbA1dは4.0%となお低値であった。

### 考察]

HbA1cが1.5%以下と異常低値を示した症例であった。HbA1c測定値は赤血球寿命により影響を受ける。また、腎不全やアルコール多飲者は高値となる場合もある。本例は容易に赤血球寿命の短縮が疑われたが一般的に糖尿病検査においてはHbA1cと他の検査の結果を照合していない。しかし、HbA1cが極端な異常値でない場合でもHbA1cが実際の血糖状態を反映しない場合もある。このため今後、貧血、Ret、尿毒症、アルコール多飲等に関連する臨床検査が施行されていればそれらと照合しコメントを加え報告するシステム作りが必要である。

連絡先 0743-63-5611(内: 8408)